

心理学研究科【教育課程の編成・実施方針】

心理学研究科は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととする。

〔博士前期課程(修士課程)〕

専攻領域や進路の違いを超え、複数の学問分野や心理学の諸領域と連携協力してプロジェクト・チームの一員として課題解決に寄与する人材を育成する。そのため、課程を通じて、学問体系における心理学の位置づけを把握し、専攻領域に固有の概念体系や方法論を修得し、それらの学識と自らの問題意識に基づいて課題を発見し解決できるよう、教育課程を編成する。

1. 授業は、下記の表にあるとおり、「研究科共通」、「専攻共通」、「領域固有」の3種の区分で構成する。
2. 研究科共通科目として、「心理学論」や「心理学研究法」など領域横断的な問題や方法を扱う科目を配置する。研究科共通科目はいずれの専攻であっても、その履修を可能とし、2科目(4単位)を必修とする。
3. 専攻共通科目として、「認知心理学特論」・「人間環境系特論」(実験・応用心理学専攻)、「臨床精神医学特論」・「発達心理学特論」(臨床・発達心理学専攻)など近接領域相互の関係づけを緊密にすることに役立つ科目を配置し、授業科目の多くをこの区分に含める。
4. 領域固有科目として、「演習」や「研究」(研究指導)をはじめとして、各領域に特化した科目を配置する。
5. 授業の目的および形式に基づいて、下記の表にあるとおり種別を設定する。
6. 科目名称の末尾に記述するアルファベットは「分野」を示し、算用数字は「順次性」を示す。
7. 臨床・発達心理学専攻(臨床心理学領域)には、公認心理師及び臨床心理士の受験資格を得るための科目を配置する。
8. 論文作成においては、1年次における構想発表、2年次における中間発表を通じて、他の各領域の教員から講評・指導を受ける機会を設ける。
9. 現職者など社会人の学習に応じるため、昼間(第1～5時限)と夜間(第6・7時限:18:20～21:30)の授業時間帯を設ける「昼夜開講制」を実施する。
10. 実験・応用心理学専攻(実験心理学領域)は、必修の講義科目4単位及び指導教員の研究指導科目8単位を含め、合計32単位以上を修了所要単位とする。
11. 実験・応用心理学専攻(応用心理学領域)は、必修の講義科目4単位、必修の実地演習科目2単位及び指導教員の研究指導科目(論文指導)8単位を含め、合計32単位以上を修了所要単位とする。
12. 臨床・発達心理学専攻(臨床心理学領域)は、必修の講義科目4単位、必修の実習科目9単位及び指導教員の研究指導科目(論文指導)8単位を含め、合計32単位以上を修了所要単位とする。

13. 臨床・発達心理学専攻（発達心理学領域）は、必修の講義科目 4 単位及び指導教員の研究指導科目（論文指導）8 単位を含め、合計 32 単位以上を修了所要単位とする。

【授業区分】

区 分	内容の説明
研究科共通科目群	専攻(あるいは領域)を超えて、心理学専攻者の専門的素養とされる学識や経験を与える目的で設けられる授業科目群
専攻共通科目群	専攻の領域間の交流を促進するために、同一専攻に属する大学院生が共有すべき専門的知識や方法を修得させる目的で設けられる授業科目群
領域固有科目群	領域に特化した問題を扱い、専門の高度化を図る目的で設けられる授業科目群

【授業種別】

種 別	内容の説明
学 論	心理学をディシプリンとして俯瞰的にとらえ、その特質を明らかにする。
特 論	心理学の各分野における問題展開や研究成果を概観する。
特別講義	心理学の特定分野の問題の展開や研究成果を探究的にたどる。
演 習	特定のテーマを取り上げて資料研究およびその論評を行う。
実 習	個別領域における課題研究の具体的方法を修得させる。
研 究	学位論文課題研究の遂行を指導・助言する。

〔博士後期課程〕

学術研究・教育者あるいは高度専門実務者となる人材を養成するために必要なカリキュラムを編成する。

1. 授業は、「研究科共通」、「専攻内共通」、「領域固有」の 3 種の区分で構成する。
2. 研究科共通科目として、「心理学論・学史演習」と「学術成果公表法演習」を配置する。
3. 専攻内共通科目として、「実験心理学特論」「同演習」・「応用心理学特論」「同演習」（実験・応用心理学専攻）、「臨床心理学演習」・「発達心理学演習」（臨床・発達心理学専攻）を配置する。
4. 領域固有科目として「研究」を配置し、学会発表や学位取得に向けた論文作成の指導を行う。
5. 1・2 年次においては毎年度末に成果論文を提出するとともに、学会発表や投稿論文の成果について報告することにより、中間的に講評・指導を受ける機会を設ける。
6. 指導教員の研究指導科目 12 単位を含め、合計 20 単位以上を修了所要単位とする。